

北海道倶知安農業高等学校

課程 全日制
 学科 生産科学科
 生徒数 98名

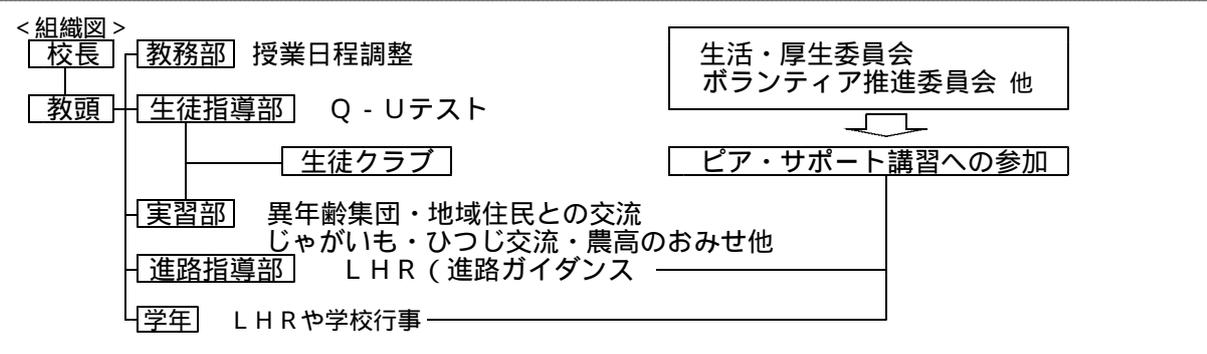
1 取組の特徴

ピア・サポート活動を実施する中で、生徒の人間関係形成能力を培うとともに、地域・他校種・異年齢集団との交流の中でコミュニケーション能力を育成する。また、教員が、Q-Uテストの結果をアセスメントし、生徒が抱える問題を早期に発見することで、生徒の集団の中での育ちを効果的に支援する。

2 取組のねらい

本校は、コミュニケーション能力育成・人間関係づくりのためのスキルアップを目的としたピア・サポート活動の充実を図ることにより、生徒の基本的なコミュニケーションスキルを高める取組を継続的に行っている。

今年度は、「ピア・サポーターの育成時間・活動時間の確保」、「地域等と連携した活動の充実」など、昨年度の課題を踏まえ、ピア・サポート活動の時間を「ホームルーム活動」や「学校行事」に位置付け、ピア・サポーターの活動時間を確保したり、地域等との連携に基づく多様な交流の機会を計画的に行っている。生徒の社会性の育成や、集団内における生徒の良好な関係づくりのために、校内の教育相談体制の構築に加え、生徒の自己肯定感や自尊感情を高揚させたり、生徒の他者を理解する力の育成に向けた取組の一層の推進を目指す。



3 取組の経過

- | | |
|---|---|
| <p>4月 入学式でのピア活動
職員研修（教育相談）</p> <p>5月 倶知安幼稚園とのひつじ交流
Q-Uテスト
草花・野菜苗販売実習
北陽小学校とのじゃがいも交流
教育相談
職員研修（特別支援教育）</p> <p>6月 進学ガイダンス（1年・2年）
農高のおみせ（～12月）
町内各所花壇造成
町内中学生農業高校体験学習
手稲養護学校運動会ボランティア
手稲養護学校交流会</p> <p>7月 北陽小学校とのじゃがいも交流</p> | <p>8月 町内祭典での販売実習
思春期ピア・サポーター養成講座</p> <p>9月 北陽小学校とのじゃがいも交流</p> <p>10月 中学生一日体験入学でのピア活動
北陽小学校とのじゃがいも交流
教育相談</p> <p>11月 Q-Uテスト</p> <p>12月 進路ガイダンス（1・2年）
倶知安幼稚園とのひつじ交流</p> <p>2月 教育相談
倶知安町雪トピアでの販売実習</p> <p>3月 生徒クラブリーダー研修</p> |
|---|---|

4 取組の内容

ピアサポート活動を中心としたコミュニケーション能力育成・人間関係づくりのためのスキルアップを目的として、全校生徒を対象に【3 取組の経過】にある取組を実施した。主な内容は次のとおりである。

1 入学式におけるピア・サポート活動

- (1) 日 時 4月10日(火)
- (2) 対 象 新入生
- (3) ねらい 新入生の緊張感を緩和し高校生活がスムーズにスタートできるよう支援する。
- (4) 内 容 ピア・サポーター(ピア・サポート・トレーニングを受けた2、3年生)が、新入生や保護者への挨拶や、受付・控室への案内・誘導を行う。
- (5) 成果と課題 ピア・サポーターが、新入生や保護者と積極的に関わることで、新入生からは「在校生のおかげで緊張がほぐれた」などの感想があった。準備時間の確保が課題である。



2 「学級適応検査等の状況」: hyper - QU

- (1) 日 時 5月9日(水)、11月14日(水)
- (2) 対 象 全学年
- (3) 検査結果(5月 11月)

1年: 満足群35%	41%	非承認群24%	22%	侵害行為群 8%	8%	不満足群32%	30%
2年: 満足群38%	46%	非承認群19%	8%	侵害行為群23%	31%	不満足群19%	15%
3年: 満足群25%	28%	非承認群16%	19%	侵害行為群25%	22%	不満足群34%	31%
- (4) 分析結果 不満足群中の要支援群に対する支援が必要である。教育相談などを実施し、学級のルールの確認や責任意識を高める指導及び承認感を高める指導が必要である。
各学年とも満足群の生徒及び学校生活に対して適応している生徒が増加した。

3 ピア・サポート・トレーニング

- (1) 日 時 4月19日(木) ~ 全10回
- (2) 対 象 ボランティア推進委員及び生活・厚生委員
- (3) ねらい ピア・サポート活動の実施に向け、基本的な対人関係スキルを身に付ける。
- (4) 内 容

自己理解	コミュニケーション・スキル	アサーション
ソーシャル・スキル	ストレスマネジメント	アンガーマネジメント
対立の解消	情報の扱い方	
- (5) 成果と課題 基本的スキルを学び今後の活動に対する意欲が高まるとともに、異学年間の交流が深まった。放課後の活動であるため、部活動などとの日程調整が課題である。

4 校内研修

- (1) 日 時 4月17日(火)、5月31日(木)
- (2) 対 象 教職員
- (3) ねらい 本校生徒の実態を踏まえ、今後の生徒への進路指導方法や、生徒指導方法についての理解を深める。
- (4) 内 容 教育相談の在り方、発達障がいの理解について学ぶ。
- (5) 成果と課題 後志教育局 白岩 晃二進路相談員と北海商科大学 大友 秀人教授による研修を実施。本校生徒の実態についての分析や、発達障がいのある生徒への対応方法について理解を深めることができた。

5 中学生一日体験入学でのピア・サポート活動

- (1) 日 時 10月3日(水)
- (2) 対 象 体験入学に訪れた中学3年生
- (3) ねらい ピア・サポーター(全学年)の生徒が中学生に対してピア・サポート活動を行い、中学生を支援するとともに、ピア・サポート・トレーニングの成果を確認する。
- (4) 内 容 ピア・サポーターが受付、誘導、昼食準備など一日体験入学の実施に協力する。参加者の支援をすることにより、ピア・サポートの成果を確認する。
- (5) 成果と課題 引率の中学校教員からも高く評価され、ピア・サポーターとしての成果を確認することができた。緊張した中学生に対する支援が成功したことによりピア・サポーターの生徒は「参加して良かった」との感想を述べ、自信をつけることができた。



6 手稲養護学校交流会

- (1) 日 時 6月23日(金)
- (2) 対 象 手稲養護学校生徒
- (3) ねらい ピア・サポーター(全学年)の生徒と手稲養護学校の生徒が交流会において、ピア・サポート活動を行い、手稲養護学校生徒を支援するとともに、障がいのある人への関わり方について学ぶ。
- (4) 内 容 ピア・サポーターが校内の誘導、交流イベント、昼食準備などを企画・実施。参加者の援助をすることでピア・サポートの成果を確認する。
- (5) 成果と課題 障がいのある人との関わりの中で、サポートの仕方などを臨機応変に変えなくてはならず、相手に合わせたサポートの重要性について学ぶことができた。多様な障がいに対するサポート方法などの学習時間の確保が課題である。



5 次年度に向けて

1 成果

(1) 1年生の中途退学者及び不登校生徒数の推移

本事業の取組により、中途退学者、不登校生徒数ともに少ない状況が継続している。

(2) その他の指標による評価

・見学旅行参加率

(H24:1年98%、2年100%、H23:1年97%、2年100%、H22:1年87.9%、2年100%)

・保健室来室者数 (H24(12月末):445名、H23:612名、H22:809名)

・一人当たりの欠席日数

(H24(12月末):1年5.4日、2年2.5日、3年4.2日、H23:1年8.5日、2年5.2日、3年2.9日)

(3) 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施により把握した生徒のコミュニケーションスキルの概況

今年度は、「ほっと」の活用に係る教職員研修の実践及び次年度の活用計画の作成に終始し、活用・分析までは行えなかった。5月、11月に実施したQ-Uテストの結果において、全学年で「学級満足群」の生徒が増加した。特に、対人関係(友人・教師)においては、全国と比較しても高い結果となった。学校生活においては、学習に対する意欲や進路実現に向けて意識の向上が見られ、意欲的に学校生活を送る生徒が増加した。

(4) 生徒の変容した姿

・ピア・サポート活動の実施により、生徒間の人間関係が改善され、相手を思いやる気持ちやコミュニケーション能力の向上が図られたことで、学習やボランティア活動、学校行事に積極的に取り組む生徒が増加した。

・学年が進むにつれてコミュニケーションスキルが向上し、人間関係のトラブルが少なくなるとともに、トラブルへの対応力が身に付いた。

2 課題

(1) スクールカウンセラーの効果的な活用が必要である。

(2) ピア・サポーター育成に向けたトレーニング時間の一層の確保が必要である。

(3) 生徒の実態やQ-Uテストの結果を踏まえ、支援が必要な生徒への、教員のより適切な指導が必要である。

3 次年度に向けて

(1) スクールカウンセラーの有効活用に向けた校内体制を整備し、スクールカウンセラーと教員が持つノウハウや知識を組織的に共有し、活用する。

(2) ピア・サポーター育成に向けたトレーニング内容や活動期間を、年度当初に計画し、活動時間を確保するとともに、ピア・サポーター養成プログラムの在り方を研究する。

(3) 校内研修をより充実させ、子ども理解支援ツール「ほっと」の効果的な活用法に向けた研究を推進するとともに、教員が「ほっと」をもとに、生徒の実態を把握し、適切な指導ができるようにする。